

内藤 修



物価高、人手不足で相次ぐ 「洋菓子店」の倒産

洋菓子店の倒産が急増しています。2024年度の「街の洋菓子店」の倒産は51件発生し、前年度の1.6倍となり、過去最多を更新しました。小麦粉、鶏卵、砂糖、バターなどの原材料価格の上昇分を、ケーキの販売価格に十分転嫁できず、利益を確保できない店が目立ちました。

消費者の買い控えやコンビニスイーツとの競争など足元の経営環境は厳しく、今後も倒産増加が続く可能性が高まっています。

街の人気洋菓子店「アルパジョン」

1992年創業の「アルパジョン」（青森県）は、ことし3月31日までに事業を停止し、自己破産申請の準備に入りました。同社は街の洋菓子店として親しまれ、特に看板商品のチーズケーキ「朝の八甲田」は地元メディアに取り上げられるなど人気を集め、2004年9月期には年売上高約3億3000万円を計上していました。

しかしその後は、看板商品の人気ピークアウトして業績は下降線をたどり、コロナ禍もあって2024年3月期の年売上高は約2億6200万円にとどまっていた。近年は大手全国チェーンの出店攻勢を受けていたほか、チョコレートや小麦粉をはじめとした原材料の価格高騰により3期以上赤字の状態が続くなか、事業の継続を断念しました。

街の洋菓子店を取り巻く厳しい経営環境

街の洋菓子店を取り巻く事業環境を振り返る

と、原材料や包装資材の価格高騰に加え、販売スタッフの不足、大手チェーンや近隣他店との競争激化も加わり、厳しい経営環境が続いています。

なかでも、原材料として使用量の多い小麦粉をはじめ、鶏卵や砂糖、バターに加え、円安の影響が大きいナッツやフルーツ、カカオ不足で高値が続くチョコレートなど、主要な菓子原材料の価格高騰が大打撃となりました。

また、コスト増加分をケーキの販売価格に転嫁できず、利益を確保できない洋菓子店の割合も増えています。2024年度の洋菓子店の損益状況をみると、約3割が赤字となったほか、「減益」を含む「業績悪化」は約6割に上りました。

スケールメリットによるコスト削減余地に乏しいことに加え、安価で高品質の「コンビニスイーツ」や、出店を進める大手チェーンとの競争は厳しさを増すばかりです。

また、価格に敏感な消費者の買い控えを懸念し、店側が値上げに慎重になっていることも倒産急増の背景にあります。

足元では、季節商品や新商品の投入頻度を高めて来店を促し、ケーキ1個あたりの利益率を引き上げ、物価高を乗り切ろうとする洋菓子店も増えています。

ただし、カカオなどの原材料価格は今後も高騰が見込まれるなど、経営環境は厳しいままであり、2025年度も倒産増加は続く可能性が高いといえるでしょう。

ないとう おさむ

2000年に帝国データバンク入社。本社情報部、産業調査部、東京支社情報部、横浜支店情報部長、情報統括部情報取材課長を経て、23年10月より現職。入社以来一貫して、倒産企業の取材、倒産動向のマクロ分析を手がける。専門は、倒産動向分析、企業再生研究。